茨城大学
Ibaraki University

Graduate School of Humanities & Social Sciences

茨城大学大学院

人文社会科学研究科

深い専門性×広い視野を育む。

人文科学専攻

- □文芸・思想コース
- □歴史・考古学コース
- □心理・人間科学コース
- □公認心理師コース

社会科学専攻

- □メディア・情報社会コース
- □国際・地域共創コース
- □法学・行政学コース
- □経済学・経営学コース
- □地域政策研究(社会人)コース

令和７年度
入学生募集

修士課程

ご注意

23ページの春入試追加合格の公表日程は赤文字が正しく、当該部分が黒文字のパンフレットは日程変更に注意してください。修正内容は、研究科ホームページを必ずご確認くださいますようお願いします。

研究科長あいさつ

令和７年４月から「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」がスタート

人文社会科学研究科
科長 原口 弥生

人文社会科学研究科は、「変化の激しい社会において、永く高度専門職業人として活躍できる広い視野を持ちながら、自ら専門性を深化・拡張し学び続けられる人材を養成するため、様々な志願者の多様なニーズに対応した、深い専門性と質の高い教育を提供する」というビジョンを掲げています。
このビジョンを実現するための基本方針は以下のとおりです。

●新たな時代に対応できる人材の養成と体系的なカリキュラム
カリキュラムは、コアカリキュラム・拡充カリキュラム制をとり、深い専門性と幅広い視野を養います。また、テクノロジーが人間社会に与える影響の基礎を学ぶ科目の必修化など、新たな時代に対応できる人材の養成を目指します。
●多様な学生のための多様で柔軟な履修タイプ別の教育
一般学生、リカレント、留学生のそれぞれの特性に対応して、タイプ別に履修します。こうした多様な価値観や背景を持つ学生が共に学びあう機会を担保しつつ、すべての履修タイプにおいて、体系的な学修を提供します。
●公認心理師養成のための機能強化
学部から継続した６年一貫の教育体制の構築としての専門コースを設置します。資格対応も含んだニーズの高い心理学分野の強化を行うのと同時に、特色のある科目の履修によって、より実践性の高い専門家を養成します。

令和７年４月から、宇都宮大学大学院地域創生科学研究科、常磐大学大学院人間科学研究科と協力して、「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」を開始します。講義には、ダイバーシティに関する幅広い視点を提供するものから、最新のダイバーシティ・マネジメントに関するものまで、豊富な内容を用意しています。また企業、自治体、NPO法人でのインターンシップなど実践的な演習を必修としており、ダイバーシティを重視した地域社会を実現するための理論と実践を総合的に学ぶことができます。

Contents

研究科の特徴 …… 4
カリキュラムの特徴 …… 5
履修タイプ制 …… 6
サステイナビリティ学教育プログラム …… 7
ダイバーシティ地域共創教育プログラム …… 8

人文科学専攻
文芸・思想コース …… 10
歴史・考古学コース …… 11
心理・人間科学コース …… 12
公認心理師コース …… 13

社会科学専攻
メディア・情報社会コース …… 14
国際・地域共創コース …… 15
法学・行政学コース …… 16
経済学・経営学コース …… 17
地域政策研究（社会人）コース …… 18

Campus Voice 院生の声 …… 19

入試情報・入学手続き等 …… 22

Graduate School of
Humanities & Social Sciences

研究科の特徴

■研究科の目的

わたしたちの研究科は、変化の激しい社会の中で、永く高度専門職業人であり続けるためには、広い視野を持ちながら自ら専門性を深化・拡張し学び続けられる能力が必要だと考えています。わたしたちの研究科では、人文科学あるいは社会科学に関する探求を通じて、高い専門知識と能力を持ちつつ、複眼的な視野で物事を判断し、多様な人びとと協働しながら社会の持続的な発展のために寄与する人材を育成することを目標としています。

■研究科の沿革

わたしたちの研究科は、平成３年度に文化構造専攻と言語文化専攻の２専攻体制で発足しました。また、平成６年度に地域政策専攻が、平成12年度にコミュニケーション学専攻が置かれ、４専攻となりました。その後、平成21年度には文化科学専攻と地域政策専攻の２専攻となり、平成26年度に地域政策専攻は社会科学専攻に名称変更しました。そして、令和３年度からは文化科学専攻を人文科学専攻に名称変更し、人文科学専攻には、文芸・思想、歴史・考古学、心理・人間科学、公認心理師の４コースを、社会科学専攻には、メディア・情報社会、国際・地域共創、法学・行政学、経済学・経営学、地域政策研究(社会人)の５コースを設置しています。

■課程の概要

わたしたちの研究科では、修業年限は２年で、所定の単位を修得し、指導教員のもとで研究の成果を論文等にまとめ、審査と最終試験に合格すると、修士(学術)の学位が授与されます。また、さらに、中学校教諭および高等学校教諭の１種免許状の授与資格を得ている人が、研究科に在学して所定の単位を修得した場合には、それぞれの専修免許状(国語、社会、地理歴史、公民、英語)を取得する資格が得られます。

■社会人のために

わたしたちの研究科では、大学院で再び学び直すことを希望する社会人のために、入試において特別選抜を行っています。

また、職業を有する人の修学の便宜を図って、長期履修制度や夜間開講等の仕組みも設けられています。社会科学専攻には、自治体職員や地方議会議員を対象としたコースもあります。社会人向け相談窓口も設置しています(詳細は、23ページ)。

■外国人留学生のために

わたしたちの研究科では、外国人留学生を積極的に受け入れるため、入試において特別選抜を行っています。入学後は、インターンシップ等のキャリア支援科目や日本語表現力向上のための科目など、将来のキャリア・パスに役立つ学びの機会を提供しています。

■皆さんの入学を歓迎します

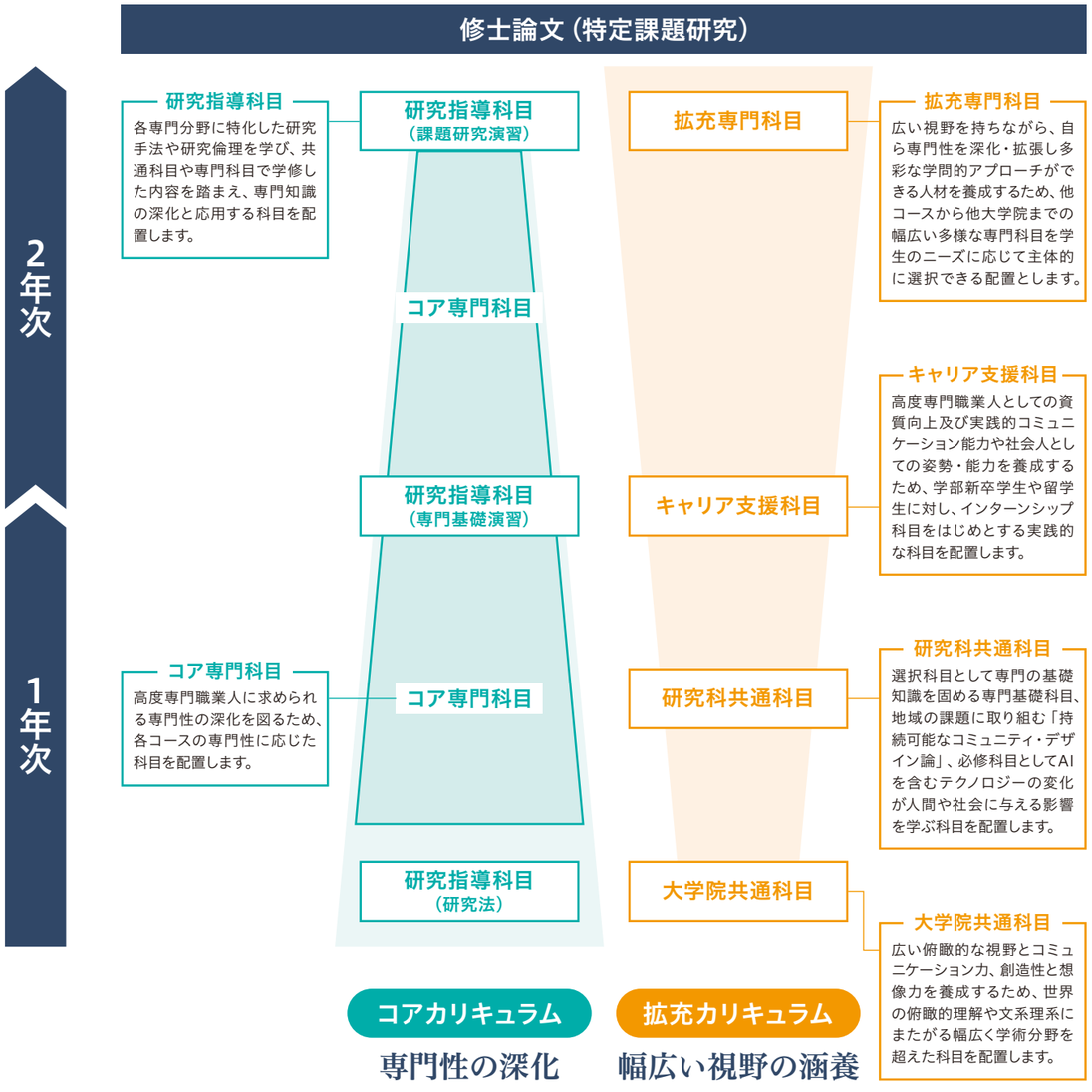
わたしたちの研究科では、人文科学または社会科学分野における基礎的な知識・技能を有し、計画的・主体的に学び続ける姿勢を持った方の入学を歓迎します。在学中には、幅広い視野と深い専門性を身につけ、高度な思考力，判断力，表現力及びコミュニケーション能力を養っていただきたいと思います。　修了後には、高度専門職業人として、多様な人びとと協働しながら、社会の持続的な発展を先導し、地域・社会の抱える諸課題への解決と活性化について、主体的、積極的に取り組むことを期待しています。

カリキュラムの特徴

わたしたちの研究科では、専門性の深化を目指す「コアカリキュラム」と、幅広い視野の涵養を目指す「拡充カリキュラム」を組み合わせて、体系的な教育課程を編成し、学生が主体的に自らの専門分野の能力をデザインできるようにします。

AIを含む科学技術の革新が人間の身体や心理、文化、社会にどのように影響を与えるのかについて知識を深めることを目的として、必修科目として基礎的な科目「テクノロジーと人間社会Ⅰ」を履修します。また、より発展的な内容を履修する「テクノロジーと人間社会Ⅱ」を選択科目として学ぶこともできます。

広い視野を持ち、自ら専門性を深化・拡張し学び続けられる高度専門職業人養成のための体系的なカリキュラム



履修タイプ制

わたしたちの研究科の学びには、高度専門職業人を目指し専門深化を志向する日本人学生、社会変化への対応など学び直しを希望する多様な社会人、日本での学びを将来のキャリア・パスに活かしたい留学生などのニーズがあります。こうした学生の特性に応じて、一般専門教育(A)、リカレント専門教育(B)、留学生専門教育(C)という3つのタイプの履修を設置します。なお、履修タイプは科目区分ごとの修了要件単位数の違いであり、同一名の科目では、どの履修タイプの学生も一緒に学びます。

コア カリキュラム

拡充 カリキュラム

区　分	Aタイプ 一般専門教育	Bタイプ リカレント専門教育	Cタイプ 留学生専門教育
課題研究演習	4	4	4
コア専門科目	10〜14	8〜16	8〜12
専門基礎演習	2	2	2
研究法	2	2	2
拡充専門科目［他コース／他専攻の専門科目及び、他研究科／他大学院の専門科目］	6〜2	8〜4	6〜2
キャリア支援科目	2※1	0	4〜2
研究科共通科目	2	2	2
大学院共通科目	2	4〜0	2

修了要件：合計30単位以上◆

◆公認心理師コースの修了要件は38単位であり、コア専門科目でA・Bタイプとも24単位を修得する必要があります。
また、キャリア支援科目は履修要件に含まれません。(※1)。
◆「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」の開始に伴い、必要単位数の内訳が若干変更になる可能性があります。

Aタイプ
一般専門教育

想定される志願者：
学内外の日本人学生、国内大学を卒業した留学生、公認心理師を志望する学部生など

カリキュラム：
専門深化をしつつ、より多様なニーズにも対応。

Bタイプ
リカレント専門教育

想定される志願者：
地域政策研究（社会人）コース志願者、公認心理師の志願者、幅広い層の社会人

カリキュラム：
広く教養や知見を深めたい方にも、特定テーマを深く掘り下げたい方にも対応した自由度の高い履修方法を提供。専門を転向した方向けの専門基礎教育を強化、社会人のための教養の充実。

Cタイプ
留学生専門教育

想定される志願者：
さまざまな国籍やバックグラウンドをもつ留学生

カリキュラム：
茨城県をはじめとする地域社会で、専門性を生かしつつ、学びの継続を可能とする履修方法を提供。インターンシップ等のキャリア支援の強化と専門性の充実。修了要件外の自由科目として、「日本語表現法」を設定。

サステイナビリティ学教育プログラム

環境問題やエネルギー・資源の不足、水・食料の逼迫、人口問題などを解決して、社会の持続可能性(サステイナビリティ)をいかに確保するかは、現代の大きな課題になっています。本プログラムは、基盤科目や海外及び国内での現場演習を通して、これらの問題を把握する俯瞰的視点と専門分野の知識をつなぐ研究科と分野を横断する勉学の機会を提供します。

この全学共通教育プログラムの修了には、基盤科目から3単位以上、コア科目から3単位以上及び専門科目から1単位以上を修得し、計10単位以上修得することが必要です。所定の修了要件を満たした学生には、茨城大学長名で「茨城大学大学院サステイナビリティ学教育プログラム修了認定証」が与えられます。

また、SSC共同教育プログラムの修了要件を満たした場合、「サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)共同教育プログラム修了認定証」が併せて授与されます。

「サステイナビリティ学教育プログラム」科目一覧

区　分		科目名	備　考	単　位
俯瞰型科目	基盤科目	サステイナビリティ学最前線　○	3単位以上	2
		地球環境システム論Ⅰ　●		1
		地球環境システム論Ⅱ　●		1
		持続社会システム論Ⅰ　●		1
		持続社会システム論Ⅱ　●		1
		人間システム基礎論Ⅰ　●		1
		人間システム基礎論Ⅱ　●		1
	コア科目	国際実践教育演習　○	3単位以上	2
		国内実践教育演習　○		2
		ファシリテーション能力開発演習Ⅰ　○		1
		ファシリテーション能力開発演習Ⅱ　○		1
専門科目	人文社会科学研究科専門科目	アジア経済論研究Ⅰ・Ⅱ	「サステイナビリティ学関連科目」(1単位以上)	各2
		グローバル化と地域開発研究		2
		持続可能な開発とSDGs研究		2
		家族社会学研究Ⅰ・Ⅱ		各2
		環境社会学研究Ⅰ・Ⅱ		各2
		国際政治学研究Ⅰ・Ⅱ		各2
		社会行動論研究Ⅰ・Ⅱ		各2
		社会地理学研究Ⅰ・Ⅱ		各2
		多文化コミュニケーション論研究		2
		地誌学研究Ⅰ・Ⅱ		各2
		環境政策・経済学研究Ⅰ・Ⅱ		各2

●大学院共通科目　○大学院共通教育プログラム科目

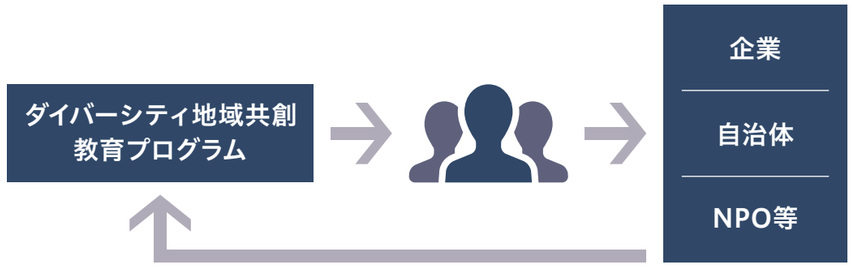
令和7年度から

『ダイバーシティ地域共創教育プログラム』が始まります

※本教育プログラムは、文部科学省「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」（令和５年度採択）の支援を受けています。

「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」で育成する人材像

地域社会や組織内でのダイバーシティ経営や
持続可能な地域経済の発展に貢献する人材を育成することを目指します。



1. ダイバーシティとインクルージョンの専門家

異なるバックグラウンドや文化を持つ人々と協力し、多様性のあるチームを創り、活かすことができる

多様性と社会的包摂の概念や重要性について理解し、組織内外で その実践をリードできる人材を育成します。

2. 地域における価値共創の推進者

地域のステークホルダーと協力し、共同の目標に向けた社会的インパクトの最大化に取り組むことができる

地域経済の持続可能な発展や社会的なニーズに関心を持ち、それに対応するための知識とスキルを習得した人材を育成します。

3. メディア戦略やコミュニケーションのエキスパート

新しいテクノロジーを活用しながら、地域社会において共感や理解を促進することができる

異なる意見や文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションを円滑に行うことのできる人材を育成します。

「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」の特徴

連携大学とのネットワーク構築による新たな教育課程

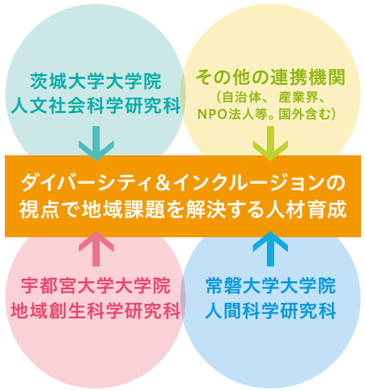
○各分野の地域リーダーに必要とされるダイバーシティ&インクルージョンの概念、政策、課題を、連携大学の教員と協力して総合的に学修する機会を提供します。

○連携大学の研究科間で単位互換等が可能になるため、多様な学修機会を享受できます。

新たな教育課程を支える支援体制

○企業、自治体、NPO法人でのインターンシップなど、実践的な演習を通じて、理論と実践を往還する機会を提供します。

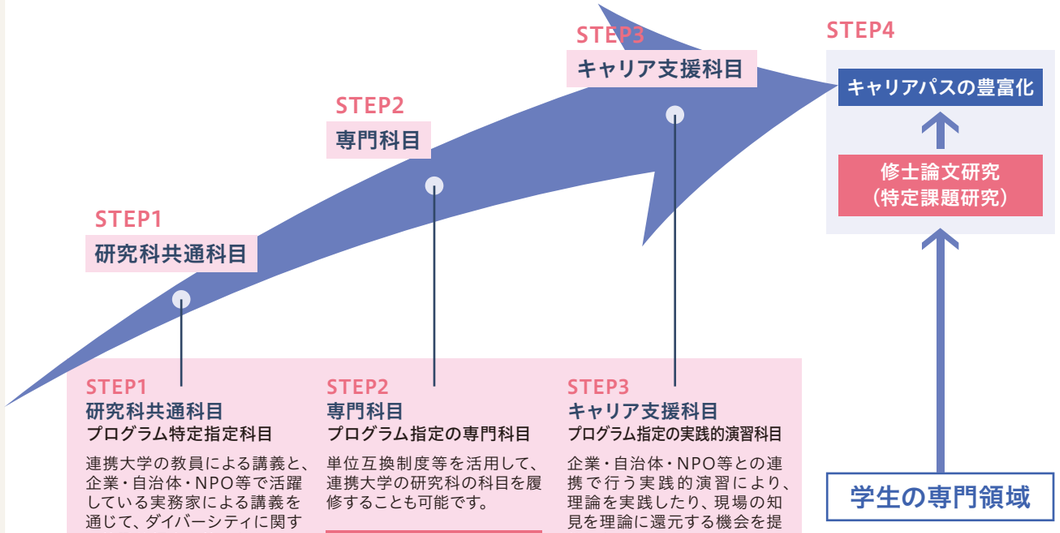
○UEA（University Education Administrator：教育専門職）のサポートを受けながら、国内外のインターンシップのチャンス、組織的なキャリアサポートを受けることができます。



※内容の詳細は変更となることがあります

「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」のカリキュラム（イメージ）

・本教育プログラムの科目には、ダイバーシティに関する幅広い視点を提供するものから、最新のダイバーシティ・マネジメントに関するものまで、豊富な内容が用意されています。
・学生は、自分の専門領域に加えて、サブメジャーとして本教育プログラムを履修します。所定の修了要件を満たした学生には、自分の専門領域の修士号に加えて、本教育プログラムの修了証が付与されます。



「ダイバーシティ地域共創教育プログラム」科目一覧（予定）

コア科目

研究科共通科目
- 「ダイバーシティ地域共創概論」
- 「ダイバーシティ地域共創最前線」

キャリア支援科目
- 「インターンシップ」など

専門科目（プログラム指定科目）

ダイバーシティ&インクルージョン系
- 「家族社会学研究」
- 「社会地理学研究」
- 「労働経済論研究」
- 「社会保障法研究」　など

地域経済と価値共創系
- 「グローバル化と地域開発研究」
- 「地方政治論研究」
- 「地域社会論研究」　など

メディア戦略とコミュニケーション系
- 「メディア教育論研究」
- 「電子メディア論研究」　など

＋

宇都宮大学　常磐大学

他大学の科目履修による
多様な研究者
多様な専門科目
多様な研究スタイル
との**出会い**

※内容の詳細は変更となることがあります

人文科学専攻

文芸・思想コース

「青春の忘れ物」を取りに行きませんか!!!

文学や思想、芸術を研究対象とし、洋の東西にまたがる多種多様な研究について学ぶことで、人間を深く理解する能力を養います。また、日本語や外国語の読解・表現能力及び論理的かつ批判的な思考力を鍛えることで、グローバル社会を相対的に捉えることができる力をもつ人材を養成します。

■想定される修了後の進路

県内外の民間企業の専門職、(専門的文書の作成を業務に含む)公務員、教員(中学校、高等学校:国語、英語)、他大学博士課程への進学があります。
修了生は、上記の進路先において、高い思考能力によって、地域の産業活性化や多様化する社会のニーズにきめ細やかに対応する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
日本思想史研究	伊藤　聡	中国近現代文学研究	西野 由希子
実践哲学研究	田原 彰太郎	美術史学研究	藤原 貞朗
日本古典・近代語研究	櫻井 豪人	英語学研究	岡崎 正男
日本古典文学研究	堀口 育男	イギリス文学研究	岩本 浩樹
日本近代文学研究	谷口　基	アメリカ文学研究	中山 大輝
中国思想史研究	井澤 耕一	言語文法論研究	西山 國雄

Message

今この大学院のパンフレットを手にして、本ページを見ているみなさま、なぜこのパンフを手に取って、しかも本ページを読んでいるのでしょうか。もしかすると、今は社会人として働いてはいるが、毎日のルーティンワークに疲れてきた、本当は大学院に行きたかったけれど家庭の事情でそれが叶わなかった、今4年生で卒業研究を書いているが、今後ももっと本を読んでいきたい、など心の引っ掛かりがあるのではないでしょうか。それでしたら、ぜひ文芸・思想コースで、日本は無論世界の文学、芸術、言葉、思想の書に言葉通り沈溺、おぼれていきましょう。

井澤 耕一　中国思想史研究

人文科学専攻

歴史・考古学コース

未来のために、過去への思考を!

歴史・考古学を研究対象とし、日頃より史資料の読解、調査、取扱い技術に関する技能を学ぶことで、日本と世界、現在と過去のつながりを見通す広く長期的な視野を養います。現在までの歴史的経緯に即して歴史学的または考古学的な問題意識から見出した諸課題を、主体的かつ論理的に歴史的事象を省察できる高度な専門性に基づいて、探究し続けられる研究能力を持つ人材を養成します。

■想定される修了後の進路

公務員専門職(文化財専門職)、博物館学芸員、文化財専門職種、教員(中学校:社会、高等学校:地歴・公民)があります。
修了生は、上記の進路先において、主体的かつ論理的に歴史的事象を省察できる高度な専門性に基づき、文化財分野等における専門的職業人として、持続可能な社会形成に貢献する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
考古学研究	田中　裕	ユーラシア歴史社会研究	澁谷 浩一
日本文化史研究	高橋　修	アジア歴史社会研究	山田 桂子
日本政治史研究	添田　仁	ヨーロッパ社会史研究	中田　潤
日本社会史研究	佐々木 啓	ヨーロッパ歴史文化研究	森下 嘉之

Message

歴史は知識ではなく、洞察を要する対象です。大学院では厳密な事実認定はもちろん、証拠となる文書・記録・遺跡・遺物一つ一つに向き合い、あらゆる視角から過去人類を考え、見落としのない見方を追求します。この作業により、史料・資料が人類の将来をも左右する宝物であると理解できるのです。歴史・考古学コースは高度専門職業人の「文化財専門職」を多く輩出してきました。自分と人類の未来のために、過去への思考の旅をご一緒しましょう。

田中 裕　考古学研究

人文科学専攻

心理・人間科学コース

心・社会・文化を基点とした人間の理解

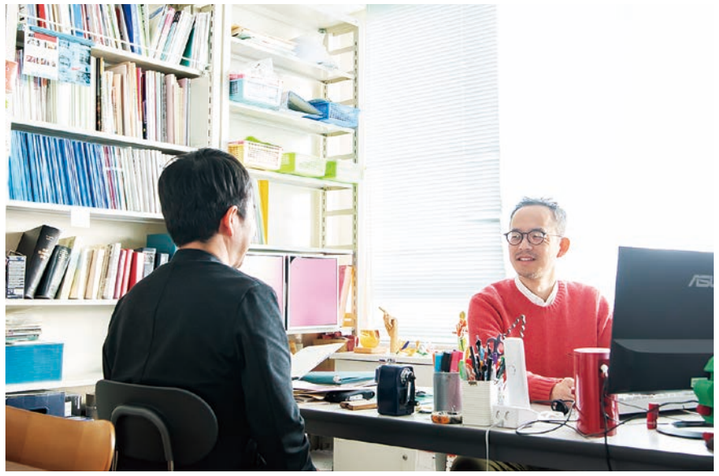
心理学・文化人類学等の人間科学を研究対象とし、これについて幅広い知識とその応用について学ぶことで、地域社会における諸課題に対して、人間の営みという視点から分析を行い、解決する能力を養います。人間科学の研究から得た知見を基に、現代を生きる人間の心理・社会・文化を実証的に探求できる人材を養成します。

■想定される修了後の進路

県内外の民間企業の専門職、教員（高等学校：地歴・公民）、（人の心や文化に関わる業務を含む）公務員、他大学博士課程への進学があります。
修了生は、上記の進路先において、心理学や文化人類学等の人間科学の研究から得た知見を基に、高い実務能力を備えながら、地域社会における諸課題あるいは個別のニーズにきめ細やかに対応する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
行動機構論研究	宮崎 章夫	生涯発達論研究	松本 光太郎
認知行動論研究	本山 宏希	文化人類学研究	青山 和夫
行動文化論研究	石井 宏典	比較文化論研究	井上 淳生



Message

人間の心が時間とともに変化することや、環境によって異なることに興味があります。「発達心理学」や「環境心理学」と呼ばれる学問領域です。多くの人は見逃しているささやかな行為から人間の心の成り立ちを明らかにすることを目指しています。大学院では一人では読み通せない研究書や研究論文を一緒に読み、具体例を交えながら議論を重ねます。そして、新たな研究テーマを見つけて、具体的な行為から人間の心の一端を明らかにしていきます。あなたのチャレンジをお待ちしています。

松本 光太郎　生涯発達論研究

人文科学専攻

公認心理師コース

クライエントに寄り添う公認心理師を養成

講義や演習、心理実践実習を通して、公認心理師に求められる心理アセスメント、心理療法、コンサルテーション、心理教育に関する専門的な知識を学ぶことで、心理専門職者として目前の課題に適切に対処する実務能力を養います。その能力を以て、保健医療、福祉、教育など、多様な分野における高度専門職業人として、自らの実践の成果と効果を的確に把握し、より適切な臨床実践を提言していくための研究能力とをバランス良く兼ね備えた公認心理師を養成します。

■想定される修了後の進路

公認心理師として地域における医療・保健、教育、産業・労働、司法・犯罪、福祉の分野等での心理的支援に関わる職業があります。
修了生は、上記の進路先において、心理専門職者として目前の課題に適切に対処する実務能力により、個別のニーズはもとより、地域社会における精神保健の現実的な諸課題の調整・解決に対応する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
福祉分野に関する理論と支援の展開	野口 康彦	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	未　定
教育分野に関する理論と支援の展開	金丸 隆太	箱庭療法特論	地井 和也
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	大島 聖美		

Message

人文社会科学研究科の公認心理師コースは、20年以上の歴史を持つ教育学研究科の学校臨床心理学専攻の流れを汲み、修了後公認心理師として活躍したいと考えている人のためのコースです。豊富な実習と授業、丁寧な個別スーパービジョンがあり、臨床心理学を実践的に学びたい人に最適のコースとなっています。一緒に自分に向き合いつつ、臨床について考えませんか。

大島 聖美　家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

社会科学専攻

メディア・情報社会コース

「今」、を、捉えてみませんか？

メディアと情報社会を研究対象とし、日々変化しているメディア環境や情報社会を学問的視点で捉え探究します。新聞・テレビ・インターネットなどのメディア、そしてマンガなどメディア文化の歴史や現状について国際比較を通して学ぶことで、メディア批評、取材、記事執筆作成、コンテンツ制作、調査等の実践的な能力を養います。また、メディアテクノロジーと人間による共創社会をデザインする取り組みなどを学ぶことで、メディアと社会の相互作用について幅広く理解し、そのための科学的思考力を養います。これらにより、Society5.0といった新しいメディア環境やAIなどの新しい情報技術の展開及びそれに伴い変容する社会や文化を視野に入れて実践的に活躍できる人材を養成します。

■想定される修了後の進路

マスコミをはじめとするメディア企業、同関連企業、県内外の民間企業の専門職があります。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
現代ジャーナリズム研究	齋藤 義彦	メディア文化研究	未　定
コミュニケーション社会学研究	加藤 篤志	電子メディア論研究	菅谷 克行
情報デザイン研究	鈴木 栄幸	近代日本メディア史研究	高野 光平
ポピュラー文化研究	猪俣 紀子	社会臨床研究	林　延哉

Message

メディア・情報社会コースで研究できるテーマは、マスメディア・情報社会・コミュニケーション・ポピュラー文化など多岐にわたっています。いずれも現代社会に生きる私たちにとって身近で重要な問題を扱っていますが、そのようなテーマに取り組んで有意義な結果を出すためには、表面的な目新しさや先入観だけにとらわれない、専門的な視点にもとづいた体系的な知識や研究・調査方法が必要になります。このコースでは、そのような知識や研究・調査方法を身につけることを目指しています。

加藤 篤志　コミュニケーション社会学研究

社会科学専攻

国際・地域共創コース

グローバル・ローカルな課題に取り組む

国際・地理・社会・政治を研究対象とし、これらの学問領域の知識を組み合わせて、地域社会や国際社会の抱えるまちづくりや多文化共生といった地球規模課題を分析します。グローバル化した日本と世界の地域社会の変容を学び、SDGs達成に向けて様々なステークホルダーと協働して新しい社会をつくりだすことのできる能力を養います。また、国内外の社会でのフィールドワークを通して、専門的及び実用的な調査・分析・提案能力を身につけます。SDGsなどの達成にかかわる多様で実践的な課題を視野に入れ、グローバルな視点をもって地域社会・経済の活性化や持続可能な開発に貢献できる人材を養成します。

■想定される修了後の進路

公務員（行政職）、NGO・NPO職員、県内外の民間企業の専門職があります。 修了生は、上記の進路先において、多文化共生やグローバルな視点を持って、例えばNPOを通した外国人への支援など、地域社会・経済の活性化や持続可能な開発に貢献する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
多文化コミュニケーション論研究	横溝　環	地域社会論研究	星　純子
持続可能な開発とSDGs研究	野田 真里	環境社会学研究	原口 弥生
社会行動論研究	伊藤 哲司	社会事業史研究	冨江 直子
スポーツ社会研究	加藤 敏弘	社会意識論研究	寺地 幹人
国際政治学研究	蓮井 誠一郎	地誌学研究	小原 規宏
地方政治論研究	馬渡　剛	家族社会学研究	笹野 美佐恵
社会地理学研究	葉　倩瑋	比較政治論研究	未　定
経済地理学研究	松尾 卓磨	環境政策・経済学研究	田村　誠

Message

地球温暖化・気候変動が世界各地に多くの困難な状況を生み出しつつあります。国内でも、少子高齢化に伴う地域コミュニティを維持する難しさなどがあります、これらの諸問題の傍観者になることなく、しっかりとした学問的な視座を持ち、研究の方法論を身につけて、これらに関わり続ける一人であってほしいと願います。私の研究室では、社会心理学に軸足を置き、フィールドワークによる「関わる知」の創出とその展開に力を入れています。

伊藤 哲司　社会行動論研究

社会科学専攻

法学・行政学コース

個人としての幸福と公正な社会との両立を図る

法・行政を研究対象とし、現在我々が直面している社会的課題、特に権利義務関係が複雑な行政や企業の現場での課題について学ぶことで、法的または政策的な思考能力を養います。また、国際化、少子高齢化、そしてAIの発達と普及による社会変動に対する法整備や、現場と関連した紛争処理などを学ぶことで、実践的な調査分析能力や企画立案能力を養います。これらにより、社会的課題について解決策を見出せる人材を養成します。

■想定される修了後の進路

公務員(行政職)、県内外の民間企業の専門職、進学者があります。
修了生は、上記の進路先において、身につけた知識と実務能力によって、地域における諸課題や個別のニーズにきめ細やかに対応する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
憲法研究	伊藤 純子	行政法研究	今川 奈緒
民法研究A	高橋 大輔	比較法研究	古屋　等
民法研究B	福田 智子	国際法研究	付　月
刑法研究	陶山 二郎	行政学研究	川島 佑介
商法・経済法研究	荒木 雅也	公共政策論研究	井上 拓也
労働法研究	松井 良和	公共哲学研究	上田 悠久
社会保障法研究	土屋 和子		

Message

個人としての幸福と公正な社会との両立を図るのが、法学・行政学の実践的意義です。こうした学問を高いレベルで修めた人材は各所で求められており、法学・行政学コースでは多様な大学院生を受け入れ、育成しています。また、変化が加速する現代にあっては、時代の流れを読みつつも、改めて原理原則に立ち戻る必要もあります。本コースでは、多様なニーズに応えられる教員を揃え、教員・大学院生が自主性を重んじつつも、仲良く、一丸となって研究に取り組んでいます。

川島 佑介　行政学研究

社会科学専攻

経済学・経営学コース

時代を捉え、持続可能な経済社会を創る

経済学、経営学を研究対象とします。具体的には、IoT等のイノベーションによって収集可能となったビッグデータがビジネスや政策立案にもたらす影響、AIの進展に伴うビジネスモデルとマネジメントの変化、貧困・格差・ジェンダー等の問題意識を包含するSDGs等、現代的かつ先進的テーマを学びます。これらのテーマを学ぶことを通じて、より広い視野のもとでマーケットデザイン能力や制度設計能力、ビジネスデザイン能力に加えて、政策の立案・評価を体験することによって政策設計に関わる能力を修得します。本コースでは、グローバル化や情報化の進展に伴って激しく変化する社会における諸課題の解決に向けて高度な専門性からアプローチし、地域社会を先導できる人材を養成します。また、留学生に対しては、日本の事例や理論を学ぶだけではなく、日本そして世界から母国の実態、諸問題を俯瞰して研究できる人材を 養成します。

■想定される修了後の進路

公務員(行政職)、県内外の民間企業の専門職、進学者があります。
修了生は、上記の進路先において、激しく変化する社会における諸課題の解決に向けた政策立案に貢献することにより、地域社会を先導する役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

主な授業科目	担当教員	主な授業科目	担当教員
経済統計研究	田中　泉	マーケティング論研究	今村 一真
経済政策研究	後藤 玲子	マーケティング・サイエンス研究	田原　静
財政学研究	掛貝 祐太	管理会計論研究	豊崎 仁美
金融論研究	内田　聡	経営戦略論研究	太田 啓文
労働経済論研究	清山　玲	アジア経済論研究	長田 華子
日本経済史研究	宮﨑 忠恒		

Message

いま経済社会の変化はかつてなく速く、社会の持続可能性には大きな警鐘が鳴っています。民間企業や国・地方自治体などがそれぞれの立場で行うより善い組織や社会を創るための努力が、全体として適切であるとは限りません。 経済学・経営学コースで、時代や社会構造の変化をマクロとミクロの視点から俯瞰し、データに基づき論理的に思考し、変革の方向性、計画、具体的な課題解決策を説得的に示す能力を身につけてみませんか。

清山 玲　労働経済論研究

社会科学専攻

地域政策研究（社会人）コース

課題解決のための政策形成能力育成

本コースは、自治体職員や地方議会議員を対象として設定しています。地域政策を研究対象とし、教員だけではなく、地方創生、中心市街地活性化、観光振興、農商工連携、防災などにかかわる様々な関係者を交え、専門的・実践的なアプローチを学ぶことで、問題解決に必要な視点と応用的な思考能力を養います。また、法学、経済学、政策過程論、統計及び社会調査法などの専門的な知識を学び、地域の課題の解決に資する実践的な政策形成に向けた調査・研究を行うことによって、地域の課題発見と地域資源を活用した課題解決に向けた政策形成能力を身につけます。これらの体系的な学び直しによって自律的で持続可能な地域社会づくりの戦力となる人材を養成します。

■想定される修了後の進路

勤務先で政策立案部署の中核職員として従事することなどが考えられます。
修了生は、それぞれの勤務先において、自律的で持続的な地域社会づくりにおいて、政策立案など、中核的人材として先導的な役割を果たしていくことを期待します。

■主な授業科目と担当教員

本コースでは、社会科学専攻内の他コースのコア専門科目を、本コースのコア専門科目として履修します。また、本コースの独自科目として、特定テーマ演習、地域資源活用研究法、地域連携創生研究演習があります。

Message

自治体職員や地方議会議員を対象とし地域政策を研究対象としております。教員だけではなく、地域のリーダーらを交え様々な関係者を交え、専門的・実践的なアプローチを学ぶ実践的なコースとなっております。また、これまで修了した卒業生のネットワークを活かして、修了後も交流や共同研究・事業を行っております。

馬渡 剛 地域政策研究(社会人) コース

Campus Voice

院生の声

Voice 01

［人文科学専攻］
山口 葵
文芸・思想コース

私は茨城大学人文社会科学部で中国近現代文学を学びました。茨城大学の大学院に進学し、中国の詩人北島（Bei Dao）を学部と大学院で研究しました。北島研究は日本では研究者が少なく、自分で課題を見つけていくためやりがいのある研究でした。

また、茨城大学では地域活動が盛んなので、学生たちや先生方とのつながりを通して学外の活動にも積極的に参加し、充実した生活を送ることができたと思います。

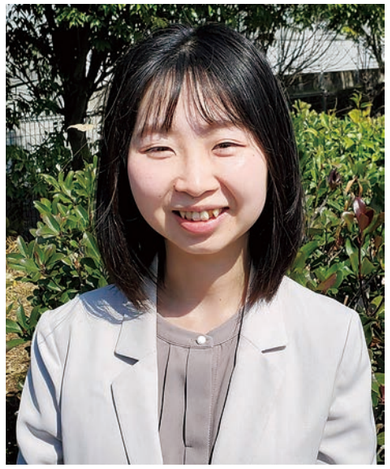
大学院での研究は文献や史資料を読み進めるだけでなく、ゼミ形式で教員や他の学生とともに検討を繰り返し、新たな視点や考え方を身に付けることに楽しさがあると思います。また本物の歴史資料に触れ、地域の人々や自治体、博物館といった最前線の人々と交流できることは茨城大学大学院の大きな魅力です。この学びと経験を糧に今後は学芸員として博物館で働きたいと考えています。少しでも気になっているなら選択肢の一つにしてみてください、素晴らしい時間になるはずです。

Voice 02

［人文科学専攻］
海野 貴之
歴史・考古学コース

Voice 03

［人文科学専攻］
新井 優希
心理・人間科学コース



茨城大学人文社会科学部を卒業して、人文社会科学研究科文化科学専攻（現人文科学専攻）心理・人間科学コースへ進学しました。松本光太郎先生の元で「存在に触れる環境世界としてのコンビニエンスストア」というテーマで論文をまとめて、2022年に修士課程を修了しました。現在は一般企業に就職して働いています。大学院は学部の時よりも先生方と深く議論を交わすことができ、私にとって楽しく充実した時間でした。同じ授業を受ける院生には留学生や社会経験が豊富な方もおり、院生同士の交流も楽しく勉強になりました。大学院での経験は、研究を深めるだけでなく、今後の人生を考える大切なものだったと思います。

私は公認心理師になるために、豊富な実習経験を積むことができる本学に進学しました。大学院では、学外での実習や相談室での実習を通して、専門家としての必要なスキルを実践的に学びます。先生方からの手厚いご指導によって、自分自身の課題と向き合い、成長することができる場です。同期の仲間と高め合いながら学んだ日々は私にとってかけがえのないもので、心理師として大切な学びを得ることができた２年間となりました。

Voice 04

［人文科学専攻］

髙木 彩衣

公認心理師コース

Voice 05

［社会科学専攻］

岸 朱里

メディア・情報社会コース

私は、修士論文を書くにあたり質問紙調査に加え、イラストでの調査も実施しました。卒業論文と比べ、調査方法を増やし、たくさんの時間をかけて研究を行えることは大学院で研究をするメリットだと思います。また、大学院の授業では留学生の方と授業を受けることが多くありました。授業内のディスカッションでは、留学生ならではの視点で意見を聞くことができ、知見が広がったように感じます。

私は将来、茨城県県北地域において外国にルーツをもつ子どもたちのキャリア形成支援団体を設立したいと考えています。大学院の授業において専門分野と他分野の視点から子どもの支援に関する知見を深めつつ、教育現場での支援を通じ、現状と課題の把握に努めています。先生方の県内各地域に根差した活動による幅広いネットワークが基盤となり、知識のインプットと経験によるアウトプットを積み重ねることができています。

Voice 06

［社会科学専攻］

飯村 祐美

国際・地域共創コース

Voice 07

［社会科学専攻］

林芷君

法学・行政学コース

私は、四川大地震の場所を訪れ、災害遺構に関心を持ち、日本にやってきました。日本でも多くの災害遺構を訪れました。災害遺構は、防災や避難の大切さに気づくきっかけになりますが、反対意見も多く耳にしました。災害遺構の価値を共有し、保存へのコンセンサスを得ることは重要だと考えています。
修士課程では行政学を専攻しています。研究以外にも、日中友好活動、地域活性化調査などに先生やゼミ生とともに参加しました。勉強面でも生活面でも多くのことを学び、多くの人に助けてもらっています。この感動を、これからの仕事にも生かしたいです。

私は社会人経験で埋め尽くされた考え方の整理と、実践的かつ体系的な理解を求めて大学院で学ぼうと決意しました。仕事との両立に不安もありますが、授業を通じて日頃感じていた疑問も別の角度から捉え直すことができます。ここでの学びや研究の成果によって、職務遂行の質的向上を図りたいですし、そうした意欲は学ぶとどんどん生まれます。こうした新たな気持ちにさせてくれる経験を、ぜひ多くの方に感じていただきたいと思います。

Voice 08

［社会科学専攻］

冨山 智子

経済学・経営学コース

水戸市職員として勤務する私は、地域課題解決への糸口を探るため、茨城大学大学院へ進みました。研究ではマンション建設による地域経済への効果を明らかにし、水戸市へ政策提言を行いました。大学院で学んだ社会調査、EBPM、計量分析、経済地理、GIS等は現在担当する自治体DXの仕事にも役立っています。社会科学の学びは、地方の発展に貢献したいという思いを持つ人にとって強力な基盤になります。ぜひ勇気を持って大学院の門を叩いてください。

Voice 09

［社会科学専攻］

小林 奨

地域政策研究（社会人）コース

入試情報・入学手続き等

入試は、「秋入試」と「春入試」の２回実施されます。
令和７年度入試から、春入試における出願書類「研究計画書」の文字数の変更及び、筆記試験免除者における卒業論文、研究計画書の提出時期に関する事項が変更となりますので、詳細は、「令和７年度人文社会科学研究科学生募集要項」を確認してください。

■募集人員

専攻・コース		専攻・コース		合　計
		秋入試	春入試	
人文科学専攻	文芸・思想コース	5名	5名	17名
	歴史・考古学コース			
	心理・人間科学コース			
	公認心理師コース	7名	若干名※	
社会科学専攻	メディア・情報社会コース	6名	8名	14名
	国際・地域共創コース			
	法学・行政学コース			
	経済学・経営学コース			
	地域政策研究（社会人）コース			

※公認心理師コースの春入試については、秋入試の入学手続者数が７名に満たない場合にのみ募集します。
　春入試募集の実施の有無は、令和６年11月13日(水)17時以降に本研究科ホームページにてお知らせします。

■出願期間

秋入試	令和6年8月16日（金）～令和6年8月22日（木）	春入試	令和6年11月21日（木）～令和6年11月27日（水）

※事前審査・個別審査が必要な方は、上記の出願期間前にそれぞれ審査を行いますので、詳細を「令和７年度人文社会科学研究科学生募集要項」で確認してください。

■試験日時・試験場

【秋入試】令和６年10月５日(土)　【春入試】令和７年２月１日(土)
【試験場】茨城大学人文社会科学部(茨城県水戸市文京2-1-1)

専攻	試験区分	試験科目及び時間割	
人文科学専攻	一般専門教育選抜	専門科目 10：00～11：30 ※1・※2	面接試験 13：00～
	リカレント専門教育選抜		
	留学生専門教育選抜		
社会科学専攻	一般専門教育選抜	専門科目 10：00～11：30 ※1・※2	面接試験 13：00～
	リカレント専門教育選抜		
	留学生専門教育選抜		

※1：公認心理師コース以外のコースでは、リカレント専門教育選抜において受験承諾書・推薦書を提出した者は専門科目にかえて小論文の筆記試験を課します。
※2：公認心理師コース以外のコースでは、卒業見込みの者で春入試（一般専門教育選抜）を志望する場合において、志望するコースの内容に即した卒業論文・卒業研究報告書（写しでもよい）、及び卒業論文等審査結果報告書（指導教員等の複数の署名・捺印、点数評価があるもの。書式は自由。）を提出した者は、筆記試験を免除し、卒業論文・卒業研究報告書を審査の対象とします。

■合格者発表

秋入試	令和6年10月18日（金）13時頃	春入試	令和7年２月14日（金）13時頃

■追加合格

入学手続完了者が入学定員に満たない場合には、追加合格による欠員補充を行うことがあります。
追加合格実施の有無及び実施する専攻・コースを、秋入試においては令和６年10月31日(木) 17時以降、春入試においては、令和７年３月13日(木) 17時以降に本学人文社会科学研究科ホームページに公表します。追加合格候補者への連絡方法等については、「令和７年度茨城大学大学院人文社会科学研究科学生募集要項」をご確認ください。

■入学料・授業料

入学手続きの際納付する入学料及び授業料は、次のとおりです。
　　入学料　　282,000円
　　授業料　　267,900円　（年額　535,800円）

注１：入学手続きまでに入学料及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び授業料が適用されます。
注２：在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。
　　入学料については免除及び徴収猶予制度、また、授業料については免除及び徴収猶予並びに月割分納制度があります。詳細は茨城大学学務部学生支援課に問い合わせてください。

■奨学金

日本学生支援機構による奨学金制度が主であり、無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金の２種類があります。日本学生支援機構の奨学金は、本人の申請に基づき、日本学生支援機構奨学規程により選考の上、奨学生に採用されると貸与されます。貸与月額は第一種奨学金は50,000円・88,000円から選択、第二種奨学金は50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円の中から選択することができます。
また、日本学生支援機構大学院第一種奨学生で、在学時に特に優れた業績を挙げた者として機構が認定した場合、貸与期間終了時に学資金の全部または一部の返還が免除されます。詳細は、茨城大学学務部学生支援課に問い合わせてください。

■進路・就職

茨城県庁、水戸市役所、ひたちなか市役所、土浦市役所、つくば市役所、牛久市役所、常陸大宮市役所、石岡市役所、鹿嶋市役所、阿見町役場、佐野市役所、茨城県県南生涯学習センター、水戸市議会議員

一般社団法人日本自動車連盟、昭和礦油、アルティア、カスミ、シード、ファミリーマート、コロロ発達療育センター、東京国際人材派遣、山新、Accenture(中国支社)、佐川印刷、Tianma Japan、ヤマイチ、愛洋、日和サービス、ひまわりコンサルティングファーム、六島創意有限公司(海外)、横浜冷凍、公益社団法人とよさと病院、社会医療法人あさかホスピタル、一般社団法人アットホームパル、医療法人霞水会土浦厚生病院、茨城計算センター、アベイズム、AKATSUKI、be、あしかがの森足利病院、筑波記念病院、栃木県立リハビリテーションセンター、私立水戸啓明高等学校(教員)

社会人向け相談窓口のご案内

大学院で再び学び直すことを希望する社会人向けの相談窓口を設置しました。どの専門領域に出願すればよいのか等のご質問のある方は、下記窓口までお気軽にお問合せ下さい。
【連絡先】場所：茨城大学人文社会科学部（担当：学務グループ）
　　電話：029-228-8106　メールアドレス：hum-gakumu@ml.ibaraki.ac.jp
　なお、本研究科には、社会人、特に職業と学業を両立させようと思っている人を支援する制度があります。
　その一つは、長期履修制度です。この制度は、職業を有している等、修学に困難を抱えている学生に対して、標準修業年限（２年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができるものです。長期履修学生として認められた場合、授業料は、標準修業年限分の授業料総額を、認められた一定の期間に学期毎に均分して支払うことになります。
　もう一つは、社会人で入学後も勤務を継続する場合など、教育上特別の必要があると認められる場合、授業や研究指導などの教育を、夜間など学生の都合に合わせた時間または時期に行うことができる制度です。夜間・休日等の授業等については、必ず出願前に、出願希望の専門領域を担当する教員と連絡をとり、対応が可能か確認を行ってください。

Schedule

入試説明会

第１回 入試説明会
［秋入試出願者向け］
令和６年７月10日（水）16:00～
場所：茨城大学人文社会科学部講義棟15番教室
参加方法：対面またはMicrosoft Teamsによるオンライン参加

第２回 入試説明会（※公認心理師コースは実施しません）
［春入試出願者向け］
令和６年11月13日（水）16:00～
場所：茨城大学人文社会科学部講義棟15番教室
参加方法：対面またはMicrosoft Teamsによるオンライン参加

秋入試

人文科学専攻 一般専門教育選抜・リカレント専門教育選抜・留学生専門教育選抜
社会科学専攻 一般専門教育選抜・リカレント専門教育選抜・留学生専門教育選抜

出願期間 令和６年８月16日（金）～令和６年８月22日（木）
試験日 令和６年10月５日（土）

春入試

人文科学専攻 一般専門教育選抜・リカレント専門教育選抜・留学生専門教育選抜
社会科学専攻 一般専門教育選抜・リカレント専門教育選抜・留学生専門教育選抜

出願期間 令和６年11月21日（木）～令和６年11月27日（水）
試験日 令和７年２月１日（土）

入試説明会について

募集要項について

Access

アクセス

JR水戸駅（北口）バスターミナル⑤⑦番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」などに乗車、「茨大前」で下車。　※乗車時間は約30分です。

またはJR赤塚駅（北口）バスターミナルから茨城交通バス「茨大前行（曙町経由）」などに乗車、「茨大正門前」で下車。　※乗車時間は約20分です。

茨城大学
Ibaraki University

茨城大学大学院 人文社会科学研究科
〒310-8512　茨城県水戸市文京2-1-1
TEL.029-228-8106　FAX.029-228-8196
http://www.hum.ibaraki.ac.jp/graduate-school/